

「ふるさとを愛し 夢を育む 賢く優しくたくましい子」

- ・(ひ) 人の話をしっかり「きく」ことのできる子
- ・(や) やさしく 思いやりのある子
- ・(く) くじけず 最後までがんばる子
- ・(た) たくましく 健康な子



<http://www.hyakuta.m-alps.ed.jp/>

かわいい訪問者

今年度も校長室にかわいい訪問者がありました。一年生の学校探検です。歴代の校長の顔写真を見つけたり、金庫や書架、ソファなどたくさんの発見を



したりしていました。校長室に数多くあるトロフィーや盾、スズメバチの巣やキジのはく製に驚いていた子どももたくさんいました。

新型コロナ感染拡大防止への協力要請について



県より新たな協力要請が8月31日までの期間で出されました。また地域の感染レベルもこれまで同様に「レベル2」となっています。基本的な取組はこれまでと変わりません。引き続き、**体調不良の場合は自宅での休養**、また**同居する家族にも症状が見られる場合には登校を見合わせる**ことなどへの御協力をお願いいたします。なお今回文部科学省よりマスクの着用についての新たな通知もありました。基本的な感染対策としてのマスク着用の位置づけの変更はありません。屋外で身体的距離(2m以上)をとれるとき、会話をほとんどしない時などは着用の必要はないとなっています。体育でも身体的距離が保てる時(ランニングなど)やプールなどでは、熱中症対策と合わせてマスクをはずしての活動を取り入れていきます。ただしマスク着用希望の児童への配慮や、体育においても移動時や集合時に加え話し合いのある場面、十分な距離が保てなく発言や話し合い活動がある教室内における授業等では、これまで通りのマスク対応となります。また、夏場の登下校時などにおいては、これまで通り十分な距離を確保し会話を控えることによってマスクをはずすことができることも、引き続き指導していきます。落ち着いてきているとはいえ、まだまだ油断できない状況です。御家庭での感染対策をよろしくをお願いいたします。

病児保育について

昨年度もご紹介しましたが、南アルプス市には病児・病後児保育の制度があります。これは、お子さんが病気やけがの際、仕事等により自宅で保育できない場合や集団保育が困難な場合に、専用の保育室で一時的に保育を実施するというものです。

今年度も、本校の校医であります丹 哲士先生からこの中の病児保育についてご紹介をいただきましたので、本日、別紙にてお便りを配布させていただきます。保護者の見学もあるようですので、関心を持たれた皆様は直接病児保育室にお問い合わせください。



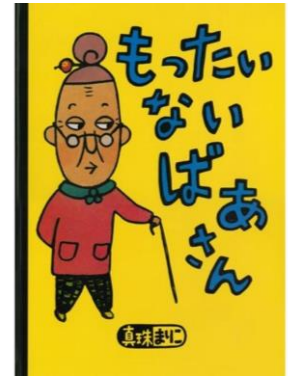
6月は環境月間です

6月5日は環境の日、6月は環境月間となっています。本校でも、以前は土曜参観の折に親子で通学路のごみ拾いをしたり、国土交通省の「ボランティア・サポート・プログラム」に参加したり、「環境学習会」を実施したりしていました。新型コロナの蔓延もあり、現在は休止となっていることが多くありますが、4年生が実施しているエコパ伊奈ヶ湖での学習プログラム、学年での野菜づくりや委員会での花づくり、ペットボトルキャップの再利用など、続けられている活動もたくさんあります。

環境といえば、人がたくさん集まり急に人口の増えた江戸時代では、ごみの処理に最も知恵を使い、使えるものは徹底して使うなど「もったいない」の精神であふれていたようです。障子を張り替えた古い紙や鼻をかんだ紙、古い傘、かけたり割れたりした茶碗など、修理したり作り直したりして再生品として使用するだけでなく、売ったりもしていました。そのため焼継ぎなどの文化も自然と発達し、現在社会の見本となる典型的な「循環型社会」でした。着物を仕立て直して親から子へ、また孫へ・・・と何代にもわたって着たりもしていたそうです。



真珠まりこさんがかいた「もったいないばあさん」という絵本があります。読んだことのある人も多いことでしょう。これは「水を出しっぱなしにしてもったいない」、「くしゃくしゃにしてまるめた紙がもったいない」などともったいないばあさんが・・・我が家でも「誰もいない部屋に電気がついていてもったいない」、「見てもいないテレビがついていてもったいない」、「まだまだ使えるのに捨ててしまってもったいない」などと、たくさんの場面でもったいないばあさんに怒られそうな気がします。



もう一つの環境について。「東京ディズニーリゾート」では、夢と希望をプレゼントするために、ごみ一つ落ちていない場所にすることに特に気を使っているそうです。そのため「掃除の日」を決めて、朝から晩まで、そして夜中まで掃除をしています。ある日ナイトカストーディアルの北村さんという方が、夜中の3時にトゥモローランドのトイレ前を通りかかると、中から話し声が聞こえてきたそうです。北村さんが不思議に思って近づいてみると、若いナイトカストーディアルが便器に話しかけながら掃除をしていました。北村さんは驚き、なぜ便器に話しかけているのか聞いてみると、「この仕事が嫌で嫌で仕方なかった。どうしてこんなことをやっているのか情けなくなった頃、本場のディズニーに行って考えが変わった。アメリカのナイトカストーディアルがトイレに連れていってくれ、これはみんな僕の友達だよと言って順番に便器を紹介してくれ、こんなすばらしい仕事をどうして嫌がるんだ、こうしてきれいにすると便器も喜ぶしお客さんも喜ぶ・・・その言葉を聞いて、僕もこれでいこう、そう思って日本に帰ってきてから頑張っているんです。」という答えが返ってきたそうです。



今月は環境月間です。「水を出しっぱなしにしない」、「電気をつけっぱなしにしない」、「最後まで物を大切に使う」「愛情をもってものに接する」など、一人一人ができるところからもう一度考え行動していくとともに、身近な環境に目を配りたいものです。